

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

奥大山の豊かな自然が育む教育

8月19日(月)から3日間、西部町村会で、宮崎県新富町と鹿児島県長島町を行政視察しました。新富町は若鶏やシャインマスカット、一粒千円のライチ等でふるさと納税を20億円近く集める人口約1万7千人の町。長島町はぶりの養殖や海産物の加工販売等で120億円を売り上げる人口約1万人の町。いずれも、地域の特性を活かし、先進的で特徴のある施策を展開されており、参考になることが多々ありました。

さて、視察の3日前、地元では、旧米沢小学校で25年前に当時の在校生たちが埋めたタイムカプセルを開封するイベントがありました。当時の在校生、保護者、職員の皆さんが一言ずつお話しされた中で、とても印象的なことがありました。それは、「ある先生の誕生日に、子どもたちが理科室を暗くして、



▲タイムカプセル開封イベントでの地域の方々と
記念写真

ホタルを放してプレゼントした。」という話でした。このような発想ができる子どもたちは素晴らしいし、そのような子どもたちを育てた保護者のみなさん、職員のみなさんの力も大きいと思います。そして、何より米沢地区の豊かな自然がなければ、実現はできなかったでしょう。日本全国に素晴らしい取組みをしている市町村は数多くあります。江府町では今後、奥大山の豊かな自然、文化、歴史をしっかりと肌で感じ、自由に発想できる子どもたちを育てる教育に力を入れていきたいと考えています。

「3000人の楽しい町プロジェクトチーム」(※)活動報告

若手職員によるグループ活動「小さなカイゼン部活動」が8月21日(木)にスタートしました。前回の事前学習では、まず全員で職員提案の『文書管理プログラム』について学び、自分のデスク周りの整理整頓についての問題点やその改善に向けてできることなどを個々に振り返りました。そこでは、「机の引き出しに書類を入れてしまい、自分にはかわからないことがある」、「文書をまとめたファイルの置き場所(あるべき所)が決まっていない」などの記述があり、これを庁舎全体の問題点として共有するため、ふりかえりシートに出されたすべての意見を全職員に周知したところですが、第1回部活動では、個々の日常の中で改善したいと感じていることを持ち寄り、各グループでこれから取り組む改善課題の設定を行いました。事前学習が、文書管理についての内容であったため、個々の課題では書類に関するものが多く出ていましたが、所属を超えて話し合うことで、書類の整理一つをとってもその原因や背景の違いが見えたり、省力化できること

に気づいたり、会場は熱い議論で盛り上がりました。各グループではこれから、9月末の第2回全員部活動に向け、設定した課題解決のためのチーム部活動を展開します。業務改善活動により職員の仕事を直したことで、町民のみなさんの幸せにつながる...というところまで行きつくのがこの活動の理想です。「『今までどおり』を変えられない人間は、来年も再来年もずっと『今までどおり』だ!」を合言葉に、若い力で新しい風を起こします!



▲「小さなカイゼン部活動」の様子

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。

これまでの活動はこちら!

これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。